

「プロンプト・エンジニアリング」とは

チャットGPTを使いこなす

対話型生成AI「チャットGPT」が普及し、その実務利用に注目が集まっています。そこで、チャットGPTを使いこなすための肝である「プロンプト（指示）」の書き方について解説します。

中小企業診断士事務所ハッシュタグ 代表
中小企業診断士
居戸 和由貴

この60%までは、適切なプロンプトを与えることで、最大限に引き出すことが可能です。残りの40%に関しては、人間がその内容を確認し、必要に応じて修正や加筆を行なうことで、最終的な品質を高める必要があります。

アウトプット品質を高める プロンプト・エンジニアリング

生成AIのアウトプット品質を高めるコツは、プロンプト・エンジニアリングです。

ここでいうプロンプトとは、生成AIに成果物を生成させるための指示、質問などの入力内容それ自体のことです。

プロンプト・エンジニアリングとは、生成AIに入力するプロンプトを最適化する手法や技術を指します。

プロンプトの質は、生成AIのアウトプットの品質に直接、大きな影響をもたらします。

プロンプトを適切に処理するために、プロンプトには明確かつ具体的な指示と、精緻な背景情報を盛り込むような工夫が必要です。

近年、生成AIの活用が急速に広がってきました。特に「チャットGPT」は、多くの中小企業で利用可能性があります。

このような生成AIは、テキスト作成、文章の校正、アイデア出

しなどの用途で活用でき、その活用の幅は日々拡大しています。しかし、多くの利用者からは、「期待した答えが得られない」といった声が上がっています。

これは、AIの問題だけでなく

く、使用者の指示や条件の与え方にも原因があると考えられます。そこで本稿では、チャットGPTを用いて、生成AIをより効果的に活用するためのプロンプト（生成AIに与える指示）のコツについて解説します。

生成AIのアウトプットの 品質と人間の役割

生成AIの進化には目を見張るものがあります。それでも現状の技術では、100%の品質を持つ完璧なアウトプット（出力）を期待するのは難しいのが実情です。

生成AIのアウトプットの品質は、現段階でおおよそ60%程度と考えます。

図表3 シフト管理のプロンプトとアウトプット例

#指示
 従業員の{#希望シフト}と{#制約条件}に基づいて、月間のシフトスケジュールを表形式で作成してください。

#希望シフト

- 従業員A:月曜日から金曜日に働きたい。ただし、連続で3日以上働かない。
- 従業員B:水曜日から日曜日に働きたい。土曜日は必ず働く。
- ⋮

#制約条件

各曜日には最低2人以上の従業員が必要です。金曜日と土曜日は3人配置してください。

以下は、従業員の希望シフトと制約条件に基づいて作成した月間のシフトスケジュールです。このスケジュールは、各従業員の希望と制約条件を考慮し、バランスを取りながら作成しています。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
従業員A	○	○	○	—	—	—	—
従業員B	—	—	○	○	○	○	○

① 「従業員Aの3日連続で働かない」という希望が反映されていないようです。

または、「#制約条件」を与え直す

#制約条件

月曜日から木曜日、日曜日は従業員を2人配置してください。
 金曜日と土曜日だけ3人配置してください。
 Aは連続しない3日間働きます。そうでなければ、連続しない4日間働きます。

※GPT-4.0を使用

シフト表の作成

せることができました。

は、「決定事項」と「次のアクション」に整理して出力したいので、「#アウトプット例」にこの2つを指定しています。指示文は、これら「#」を参照する形で設定しています。

このように、手間のかかる議事録の整理を、ものの数分で完了さ

こちらにも議事録の整理と同様に、指示、条件、インプット情報の3要件を踏まえて、「#」で区切って指示を与えます(図表3)。

ただ、今回は「#希望シフト」に反して、従業員Aが3日連続で働くシフト表が出てきてしまいました。この場合の処理として、

- ① 対話的に再質問する
- ② プロンプトを見直す

の2通りの処理が考えられます。

この工夫の過程が、プロンプト・エンジニアリングそのものです。

本稿では誌面の都合上省略しますが、いずれの処理でも正しいシフト表が作成されました。

以上のように、明確なプロンプトを設定することで、求めるアウトプットが得られ、業務効率が向上します。

生成AIの利用リスク

生成AIを活用することとは、業務効率化などのメリットがある一方で、内容に誤りがある可能性はもちろん、著作権侵害、個人情報・機密情報

の漏えいなど、法的なリスクも伴います。

これらのリスクから、生成AIの導入には、ルールの整備と社内周知が必要です。

適切なガイドラインを設定することで、これらの法的リスクを軽減することが可能です。たとえば、社員がチャットGPTを利用する際のルールを明確にし、個人情報の取扱いなどを定めることが重要です。

ちなみに、日本ディープラーニング協会が公開している『生成AIの利用ガイドライン』には、利用時のリスク、権利に関する事項等がまとめられており、中小企業が生成AIを導入するための手引きとして役立ちます。

プロンプトの基本とその実例について解説しました。具体的なプロンプトのコツを理解し、実務に取り入れることで、業務効率の向上やアイデア出しなど、多岐にわたる分野での生成AIの活用が期待できます。

生成AIの利用に関するリスクを十分に理解し、適切な対策を講じたうえで、きたる生成AIの時代に対応しましょう。

おりとかずゆき

保険会社、人材会社、コンサルタント経験を経て、2021年中小企業診断士として独立。マーケティングやデジタル技術に強みがあり、顧客の売上拡大を第一の課題とする。